

「仲間とともに、運動の楽しさや喜びを味わい、生活に生きる体育学習」を目指し、運動好きな児童を育てる。
～「1日1回外遊び」で体力向上～

大分県由布市立挾間小学校

全校児童数	635名(男子331名 女子304名)		
全クラス数	27	教職員数	50名
体育専科教員訪問学校数			9校
訪問校	石城小、由布川小、谷小、阿南小、東庄内小、西庄内小、由布院小、川西小、塚原小		
体育専科教員名		江良 信司	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆社会体育等で運動をする児童とそうでない児童の、運動能力の二極化を是正。
- ◆習い事の多さや広範囲な校区の影響のため、放課後における友だちとの遊びを通しての運動時間の確保ができないことへの対応。
- ◆男女とも体力調査結果の全国平均を下回った種目から、柔軟性と持久力向上への対応。

2 取組の計画

- 仲間と見合い教え合いをすることで、技のポイントが理解できる授業を実践し、体育好き、運動好きな児童を育てる。低体力層の児童も運動好きを(本務校/訪問校とも)育てる。
 - ・課題解決のための有効な「場の工夫」を行う。
 - ・見合い教え合いで仲間と関わらせ、技能を身につけさせる。
 - ・タブレットを効果的に利用し有効なTT指導のあり方を研究する。
- 挾間町、庄内町、湯布院町への訪問指導で、体力向上プランの実践の検証、有効なTT指導や場の工夫、関わり合いによる見合い・教え合い学習を進め、体育好きの児童を育てる。
- 挾間体育部会と市教研体育部会で、指導主事を招聘しての公開授業を開く。
- 由布市体育主任会で1校1実践の情報交換を行い、由布市全体で体力向上を図る。

Do：実践内容

1 体育授業の工夫(めあて&振り返りの定着)

(1) 授業始まり

- ①学年の発達段階・個々人の運動能力に応じた、サーキットトレーニング(屋外)・柔軟運動(体育館)の設定。
- ②単元に応じた、準備運動の設定。

(2) 授業の展開

- ①毎時間、「運動の技能」に限定した、「めあて」の確認時間を確保し、目的を明確にして授業に臨ませた。
- ②めあての設定に関しては、活動内容によって、全員同じめあてで取り組ませたり、個人の技能レベルに合わせて複数のめあてから選択させたりした。

(3) 授業の振り返り

- ①各自でつぶやかせたり、代表者に発表させたりした。
- ②教室での空き時間を利用し、振り返りを記録に残し、次につなげさせた。評価の参考資料にもなった。

2 実践授業での指導法の研鑽(モデル授業の活用)

- (1) 推進教諭の実践授業をタブレットで撮影し、その動画と指導案を参考に、各担任が授業を行う。

- (2) モデルクラスの授業動画を、全クラスの担任・推進教諭が視聴することで指導技術を共有し、授業改善の話し合い材料として活用した。

3 外遊びの充実

(1) 遊具の開発・遊び場の設置

- ①ジャンプボードやコーンを使った遊びの普及を図った。
- ②休み時間における、サッカー・ドッジボール遊びの頻度を上げるために、コートを用意を事前に行った。

(2) 「投てき力」向上を目的とした取り組み。

- ◎遠投教具を3学期の授業で扱うことで、次年度のスポーツテストに備えた。

(3) 「鬼ごっこ遊び」の普及活動

- ◎「警察と泥棒」「コーン鬼ごっこ」「セブンストレジャーズ-ハント」の、遊ぶ場・時間の確保を行った。

●工夫したこと(&苦労した点)

- ①授業時のめあての持たせ方は、ホワイトボードを利用し視覚にも意識づけた。
- ②授業の振り返りは、「振り返りカード」を使用し、担任と協力して継続的に取り組ませた。
- ③個々人のタブレットを授業で活用させることで、児童に自身の演技・競技を即座に確認させることができた。

Check：取組の成果

- ①アンケートの「めあてを意識し、授業の終わりにしっかりと振り返ることができた」が、一学期89.6% ⇒ 二学期92.3%
- ②アンケートの「天気の良い日は、外遊びをした」が、一学期70.8% ⇒ 二学期83.9%
- ③アンケートの「体育の授業が楽しい」が、一学期90.9% ⇒ 二学期95.2%

Action：今後の課題

- ①訪問授業をすることを通して、体育授業に関する実態を把握できることを再確認した。今後も、由布市内における指導レベルの均一化のため、継続して訪問授業を実施する必要性を感じた。
- ②由布市職員専用の共有サーバーを利用し、各学校の担任の体育授業動画を閲覧できるようにすれば、体育の指導レベルを上げることができる。
- ③「運動能力テスト」「運動会」「その他の体育的行事」を見据え、体育授業・外遊びとリンクできるように計画を立てる。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

効率的な授業運営(準備・片付け・T&T・電子機器の活用)を行うことで、運動量の確保が出来る。休み時間の遊びを充実させることで、同学年・異学年間のコミュニケーション作りに役立つ。全校が、一つの目標の元に体育授業を行える。

訪問校での授業風景

マット運動&跳び箱



体ほぐしの運動



フットホッケー



サッカー

